



こんにひあ。もう12月。師走っていいますが、みなさん走ってますか。そして、1月は睦月。むつみあう（仲良くする）月なんですって‥ぜひKPと仲良くしてください！

【10/16 「toi-toi」に堀合さんが出演しました！】

10月16日のNHK Eテレ『toi-toi』に、堀合悠一郎さんが出演しました。

番組では、「あなたはなぜ私を怖がるんだろう？」という問い合わせをテーマに、「障がいへの差別について」探求が進められました。

堀合さんは、「当事者の発信があまりにも少ないことを危惧し、社会に向けて問い合わせることが当事者としての役割としてテーマを考えた。怖さを乗り越えていくことができたら、偏見や差別が解消していくことに少し動きができるのではと思ってたてた問いです」と話されていました。

また、「番組を通して、新たな気付きや共有が生まれたと思う」とも語っています。

翌日に行われた10月の定例会では、このテーマをもとに、参加者みんなで語り合いを行いました。



＜語り合いの抜粋＞

- ・「知らない」ということに対する恐怖があるのではないか。直接「知っている」というだけでも感じ方が全く変わるのでないか‥
- ・本当に怖がっているのは自分。自分に精神疾患の診断がついて、自分への差別がぬぐえない。自分への差別をどう克服すればいいのか‥。
- ・差別の土台に偏見があり、偏見のもとにはやはり「知らない」ということがあると思う。克服するには、人とひととのかかわりが大事なんだと思う。
- ・認知科学の研究者や、障がい者施設建設反対運動の元参加者との対話が面白かった。番組の構成がよかったです。
- ・圧倒的な無知からくるものがあると思う。人とひとの間に、線を引く。(線のこっちと向こうを分ける)ヨーロッパの人々は徐々にオープンになっていっていると思うが、日本はまだセルフステイグマが強いと感じる
- ・日本は国の施策として「精神科病院への強制入院」があった。そのことが差別を生んだのではないか。
- ・知っていてもわかつてもらえないこともある。身近な人にもわかつてもらえない。
- ・知ってもらうことが大切。予防という視点だけではなく、回復というメッセージも大事だと思う。
- ・メンタルヘルスのことは、みんなが知っていることが重要だと思う。知っていることで、変わることができるのではないか‥。
- ・「精神障がい」だけでなく、「知的障がい」や「発達障がい」「自閉症」についても、みんなが知る機会が増えるといいな。



とても1時間半の定例会では語り切れないテーマでした。もっともっと時間がほしい‥と感じた定例会でした。



【11/7 東京家政大学にゲストスピーカーとして行ってきました!】

今年も福富律先生から授業『精神保健福祉の原理』にゲストスピーカーとしてお招きいただき、5人のメンバー（風書さん、おーちゃん、せきさん、ヒコさん、三瓶）で登壇しました。80名を超える学生たちに、KPの活動のこと、KPメンバーそれぞれのストーリーをお話ししました。病気とのつきあい、入院やさまざまな治療の経験、これまでの苦労や経験、生きがい、そしてKPで活動してきた想いや大切にしていることなどを語り、学生からの質問にこたえました。

せきさん：今までになくたくさんの学生を前に、緊張しましたが有意義な時間になりました。

ヒコさん：何より、一緒に発表した仲間のそれぞれの人生や想いを知って感動しました。近隣のレストラン（就労継続B型事業所cafeふれあい十条店）でのランチ会も、美味しく、福富先生と語り合えて良かったです。



【11/27 第36回かながわ国際人権集会シンポジウムに堀合さんが登壇しました。】

戸塚公会堂にて神奈川人権センター主催の第36回かながわ国際人権集会が行われ、メインシンポジウムに堀合悠一郎さんが登壇しました。「ともに生きる社会について考える」をテーマに、3名のパネリストとコーディネーターが、それぞれの活動や「ともに生きる社会」への想いを語りました。

- シンポジウム
- ・渋谷治巳さん（一般社団法人REAVA理事長）
 - ・堀合悠一郎さん（認定NPO法人さざなみ会理事長）
 - ・奈良崎真弓さん（にじいろでGO！代表）
 - ・コーディネーター：成田洋樹さん（神奈川新聞報道部記者兼論説委員）



集会に参加したKPメンバーから、感想を寄せていただきました。

登壇なさったのは、脳性まひ当事者渋谷治巳さん、さざなみ会堀合悠一郎さん、精神障がい当事者奈良崎真弓さん。わたしには、はじめ脳性まひの方のお話が聞き取れるだろうかという戸惑いがありました。渋谷さんのお話は理路整然としており、馴れるとする理解でき、自らの偏見を正されました。堀合さんの発言は、いつも論理的でていねいでした。奈良崎さんは障がいをのりこえ、活発に活動なさっているご様子。こちらが勇気づけられました。

お三方が強調していたのは、障がい者も一般の人との交流を強く望んでいることです。わたしも、日常的な交わりをふやしていくことから、お互いの思い込みを減らしていくしかないように思います。ふだん接する機会がない健常者は、たまに出会うとびっくりすることもあるでしょうから。

こういう素晴らしい会は、もっとアナウンス、宣伝をして、欲しいと感じました。たいへん実りのある集会でした。（今村）

「『ともに生きる社会』について考える」テーマで、3名の方のご経験や考えを伺うことが出来て、大変興味深い内容でした。それぞれの登壇者の異なる見方を知ることが出来た一方、大枠で共通した考えもあったように理解しました。誰かと一緒にいるということが、とても大切なことで、その中で仕事をしたり、話したり、一緒にお茶を飲んで世間話をしたりなど、何かを一緒にすることが、お互いを認め合いケアしあう「場」になっているのだと思います。堀合さんも言われていたように、「ともに生きる社会」というのは、障害の有無や立場の違いなどを乗り越えて、お互いの気持ちを理解できる関係性にあるのだと考えます。よく知らない者同士であっても、一緒にいて話したり何かをすることで理解しあい、少しずつその人と適度な距離感にしていくことが必要なのではないでしょうか。このような場を社会に作ることで、場に何かが起き参加した人が元気になる、それを継続していく、広げていくことで、「ともに生きる社会」に近づいていくのではと想像します。これも登壇の方々が言っていたことですが、障害のあるなしに関わらずに、今よりもごちゃまぜの社会で暮らすことが大事という意見には全面的に同意します。その様な社会に、少しずつ近づいていけば良いなと願っています。（竹多）

『定例会ってこんな様子です』

〈11月 定例会〉

- 10月の相談活動の報告
- 【630データについての意見交換】
 - ・病院ごとのoutlineがわかるのは貴重
 - ・神奈川は開示をし続けてもらえているのは貴重なこと。
 - ・沢山の人に、活動に参加してほしい
 - ・色々な人の目に触れてほしい



KPの定例会は、皆さんで一緒に作っていける
らと思っています。
こんなことを話したい、こんなこと聞いてみたい！！！とか要望をおよせください。

【どうして〇〇な活動しているんですか？】

KPメンバーさんはいろいろな活動をしている人がいます。
今回は、KP会長の藤井さんに「どうして絵星空の写真を撮っているんですか？」ってきいてみました。



私の趣味の一つが写真撮影です。撮影対象は自然の風景、主に星空写真です。長野など、遠方まで徹夜で出向くこともあります。また、KPなどのイベントの撮影も担当して皆さん姿を撮ることもあります。“写真”という表現手法により、多くの方々にリアルな感動を伝えることを年頭に日々カメラのファインダー-ごしに挑戦しています。写真を通じて日々の流れを見ることで皆さんに感動と幸福を分かち合えればと思います。そして、そこから新たな関係性が育まれ、心のコミュニケーションが生まれればと思います。（藤井）

KP事務所には 藤井さんが撮られた星空の写真が飾られています。
ぜひ みにきてください！

【サポーターになってください!!】

わたしたち KPの活動（病院の訪問や相談活動、普及啓発事業など）は、
サポーターの皆さんからのご支援で成り立っています。

活動を継続していくために、サポーターとしてお力を貸していただければ幸
いです。

（2025年10月～2025年11月にご寄付いただいた方）（順不同）

神鳥さん、匿名さん、智田さん、原さん

ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。
また、定例会でのお菓子の差し入れなどの寄付もたくさんいただいている
ありがとうございます。



こちらから銀行振込
または
クレジットカードが
えらべます。

【ボランティアのつぶやき】

電話相談などで活動してくださっているボランティアさんに日々感じた
ことをつぶやいていただきます。

KPの電話相談ボランティアのお仲間に入れていただいて1年程経ちました。行く
たびに今日は誰から電話がかかってくるかといまだにドキドキしています。

ある日のこと、ご家族からの電話をとりました。その日の電話の当番は3人でしたが、私は他の2人とは考え方が異なりました。それは、色んな立場の人が話を聴くよ
さなのだと私は思っています。だから自分は当事者なので、”当事者の目線で聴く”
ことを大事にしております。そしてその後のミーティングで意見が異なることにつ
いて、モヤモヤはある程度解決しました。意見が異なることは、決して間違えでは
ないし、ある意見すべてが正解です。

自分が一番大切にしていることは、一人一人に寄り添うこと、初心忘れるべから
ずで、一つ一つの電話を大切にこれからも受けいきたいと思っております。

（関）

【相談活動のご報告】10月～11月

＜相談活動の集計と内訳＞

	総数	電話	メール	手紙	訪問面会	所内面接	オンライン面談
10月	133件	113件	13件	1件	2件	1件	3件
11月	102件	89件	7件	0件	5件	1件	0件

＜新規相談の内訳＞

	件数	本人	家族・ 関係者	県内	県外	不明	医療	生活・福祉・ そのほか
10月	12件	9件	3件	9件	3件	0件	7件	5件
11月	9件	7件	2件	4件	5件	0件	8件	1件

KP日誌

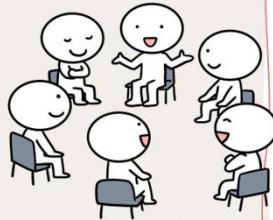
《ミニミーティング》

ボランティア相談員を中心に相談の経過報告や対応の検討をしたり、情報共有をしたりして、相談員相互のサポートの話し合いを行っています。

10月24日（金）7名（現地4名、オンライン3名）
11月28日（金）7名（現地4名、オンライン3名）

《定例会》

現地とオンラインのハイブリットで開催しています。
ぜひ、みなさんご参加ください。



10月17日（金）来場16名 オンライン12名
11月21日（金）来場14名 オンライン12名
※次回は **12/19（金）** です。

事務局のうごき

《5周年記念イベントこれまでと、これから》

9月より企画会を4回開催し、内容やプログラムなどについて検討してきました



※詳しくは 別紙チラシをご覧いただきお申し込みください

《虐待防止研修》

11/11に「NPO法人こここのわ」さん、11/28には「一般社団法人ラフレックス」さんから依頼を受けまして、虐待防止に関する研修講師を行いました。

障害者虐待防止法の基礎、身体拘束について、虐待はなぜ起きるのか（構造的分析）、「良かれと思って」「支援者のふるまい」が引き起こす可能性のある心理的な虐待について、働く仲間のメンタルヘルス、職場組織・風土づくりに役立つこと、大切にしたい「権利擁護の視点」や「対話」についてなど、お話ししています。

KPに寄せられる相談をもとに、架空事例などももちいたり、精神障がい当事者のピアスピーカーの声も届けています。

講師のご依頼は、KP事務局までご相談ください。

（三瓶）

【編集後記】

あの暑かった日がうそのように、ちゃんと冬になりましたね。「自然って偉大」って想いをKPのメールでつぶやいてくれた方もいました。今年はみなさんにとってどんな年だったでしょうか。KPはみんなの協力により5周年を迎えることができました。

KPは今年は26日まで活動します。年末年始は少しゆっくりお休みをいただき、エネルギーを蓄えて

年始は、1月5日（月）からKPは活動を開始します。

発行：認定NPO法人さざなみ会

KP神奈川精神医療人権センター
けいびーかながわせいしんいりょうじんけんせんたー



発行日：2025年12月10日

住所：〒235-0023 神奈川県横浜市磯子区森6-1-10

事務局電話：080-7372-7432

相談電話：080-7295-8236

MAIL :kp.kanagawapeer@gmail.com

ホームページ：<https://kanagawa-peer.com/>

